

トピックス

第21回国際数学者会議(ICM90)が、8月21日から29日までの間、国立京都国際会議場で行われました。アジアで初めての会議ではありましたが、83カ国約3700人が参加しました。

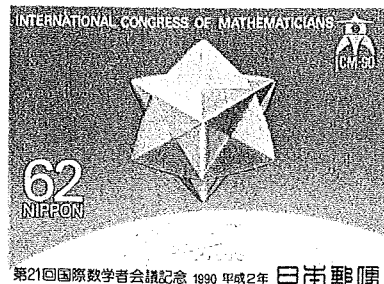
開会式では、“数学のノーベル賞”といわれているフィールズ賞と、前々回から始まったネヴァンリンナ賞が授与されました。フィールズ賞は、今回次の4人に贈られました。

森 重文・京都大数理解析研究所教授
ドリンフェルド・上級研究員
ウィッテン・プリンストン高等研究所教授
ジョーンズ・カリフォルニア大バークレイ校教授

フィールズ賞授賞者の4人



左から順に、ウィッテン、森、ジョーンズ、ドリンフェルド



(8月17日に発行された記念切手)

日本人の受賞は、小平邦彦・東大名誉教授(1954年)、広中平祐・ハーバード大教授(1970年)に次いで3人目、まさに20年ぶりということで一層の注目を集めていました。

また、情報や計算機に関する数学的な業績に対して与えられるネヴァンリンナ賞は

ラズボロフ・上級研究員
に贈られました。

授賞式のあとは、たくさんのカメラマンのフラッシュに対して、5人ともいささかウンザリ気味ではありましたが、輝いていた目が印象的でした。

午後から、授賞者の研究内容を別の人が解説されました。森先生の研究は広中先生が説明され、いっものながらのウィットに富んだ講演で、会場は大爆笑でした。